

忘れられた叡智を求めて

第4回

なぜ、政治家は、いま国家や社会が直面する様々な問題を解決できないのか。

なぜ、経営者は、いま市場や企業が直面する様々な問題を解決できないのか。

その最も大きな理由は、それぞれの問題が、「独立の問題」として存在しておらず、複雑な「問題群の生態系」を形成しており、さらに、その生態系の中で、様々な問題が「悪循環構造」を形成しているからである。

例えば、社会における「不況」という問題の背後には、海外の動向、政府の政策、企業の戦略、消費者の意識など、様々な問題が複雑に絡み合った「問題群の生態系」が存在している。そして、その生態系の中には、「企業の業績悪化→賃金抑制→購買意欲

病むときは、全体が病む

低下↓売上低迷↓企業の業績悪化」といった悪循環構造が様々に存在している。

同様に、企業における「売上低迷」という問題の背景には、「売上低迷↑魅力的な商品の不在↑開発力の低下↑優秀な人材の不足↑人材採用の不調↑企業イメージの低下↑広報予算の削減↑収益の悪化↑売上低迷」といった「問題群の生態系」と「悪循環構造」が存在している。

では、こうした「問題群の生態系」に対して、政治家や経営者は、どう処していくべきなのか。

そのためには、海外の最先端の政策論や戦略論に目を奪われるのではなく、この日本という国に永く伝わってきた「東洋的な叡智」を思い起こすべきであろう。

その東洋的な叡智の一つが、次の言葉である。

病むときは、全体が病む。

すなわち、国家や社会、市場や企業において問題が生じたとき、表面に現れた「個別の問題」だけに目を奪われることなく、表面に現れていない「問題群の生態系」全体に目を向けなければならぬ。

この言葉の意味を象徴するのが、西洋医学と東洋医学の治療法の違いである。

西洋医学では、体に不調を訴えらると、精密検査などによって問題の原因となる臓器や部位を突き止め、まず、その症状を軽減するための対症療法的な治療を施す。

これに対して、東洋医学では、体に不調を訴えらると、身体全体の調和が崩れたことに



田坂広志
[多摩大学大学院教授
シンクタンク・ソフィア
バンク代表]

よって、その臓器や部位に警告としての症状が出たと考え、単に対症療法的な治療を施すのではなく、身体全体の調和を取り戻すために、食生活や運動、睡眠や呼吸法、さらには、人間関係や心の姿勢にまで改善を指導する。

すなわち、東洋的な叡智は、「病むときは、全体が病む」との思想にもとづき、「癒すときは、全体を同時に癒す」と考えるのである。

そして、この東洋的な叡智にもとづく「生態系的手法・全体論的手法」は、単に健康の問題だけでなく、政治や経済、経営の問題を解決するた

めにも、極めて重要な手法になってきているのである。
次回、そのことを、「生態系の政策」「生態系の戦略」として語ろう。